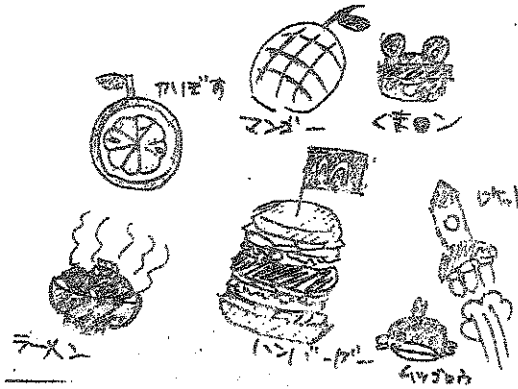


パフォーマンス課題「日本縦断すごろくプロジェクト」

【すごろくボードのデザインのポイント】

- すごろくのルートをわかりやすくする工夫をしてみよう (ルートの線を立体的にしてみるなど)。
- 白地図に色を塗るなど日本列島の雰囲気を出すように工夫をしてみよう。
- 余白にイラスト・写真・絵などを描いたり、貼ったりして、すごろくの楽しさを演出してみよう。

例) B組 () 班のイラスト



【ワードファイル「問い編」「解答・解説編」の作成ポイント】

- 「問い編」については、47都道府県の表を完成させるように埋めていくこと。
- 「解答・解説編」については、47都道府県の表を完成させるように埋めるとともに根拠となった出典を明確にすること。

※出典の示し方 (著書の場合): 著者 (発行年) 『著書名』 出版社

※出典の示し方 (ウェブサイトの場合): 「サイトのタイトル」 URL (取得日時: 〇年〇月〇日)

<47都道府県の表の訂正 (「問い編」「解答・解説編」ともに)>

- ①兵庫県、⑩京都府、⑨大阪府、⑳和歌山県、㉑奈良県、㉒奈良県→⑰鳥取県、⑱兵庫県、⑲京都府、㉓大阪府、㉔和歌山県、㉕奈良県

<再掲>

問、日本の各地方の学習を踏まえて、日本列島を縦断するすごろくを作成してみよう。各都道府県のマスのミッションとしての「問い」を協働で作成しよう。作成する「問い」は、語句の穴埋め問題や選択肢による客観問題、一問一答などキーワードやキー概念を問うものにする (解答・解説も作成すること)。すべての都道府県に関する「問い」を作成できたら、実際にすごろくをしてみよう。また、この一連のプロセスで「日本」についてのイメージの変容や新しい発見を省察することによって表現してみよう。

◎本質的で根源的な問い: 「すごろくプロジェクトを通じた作問・作解・作解説によって、『日本』のイメージがどのように変容するか。どのような新しい発見をするか」「多文化共生問題を含めた持続可能性を妨げる課題にどう応答

☆「日本縦断すごろくプロジェクト」のルーブリック (評価基準表)

スタンダード	記述語
18点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の各地方の学習において抱いた疑問や知らなかったことを「問い」というかたちで表そうとしている。疑問や知らなかったことを他者と共有し、すごろくの作成・実施・省察を通して「日本」についてのイメージを変容させたり、新しい発見をしようとしている (主に「関心・意欲・態度」)。 ・日本の各地方についての疑問や知らなかったことを「問い」というかたちで表現している。協働によるすごろくづくりを通して、「日本」についてのイメージの変容や新しい発見を認識することと相まって、省察により言語化し、自覚している (主に「思考・判断・表現」)。 ・「問い」を作成する際に適切な情報を収集するためにさまざまな資料やデータにアクセスできている。また、情報を取捨選択し、適切な情報を活用することができている。正確に出典を明示し、「問い」の信頼性を担保している (主に「資料活用の技能」)。 ・「問い」を作成するための日本の各地方の基本的な知識や概念を習得できている。その中で「わかること」と「わからないこと」を分けることができ、疑問や知らなかったことなど「わからないこと」に着目して、知識や概念を精緻に活用できている (主に「知識・理解」)。
14-17点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の各地方の学習において抱いた疑問や知らなかったことを「問い」というかたちで表そうとしている。すごろくの作成・実施・省察を通して「日本」についてのイメージを変容させたり、新しい発見をしようとしている (主に「関心・意欲・態度」)。 ・日本の各地方についての疑問や知らなかったことを「問い」というかたちで表現している。協働によるすごろくづくりを通して、「日本」についてのイメージの変容や新しい発見を認識している (主に「思考・判断・表現」)。 ・「問い」を作成する際に適切な情報を収集するために資料やデータにアクセスできている。また、情報を取捨選択できている。正確に出典を明示し、「問い」の信頼性を担保している (主に「資料活用の技能」)。 ・「問い」を作成するための日本の各地方の基本的な知識や概念を習得できている。その中で疑問や知らなかったことなど「わからないこと」に着目して、知識や概念を活用できている (主に「知識・理解」)。
7-13点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の各地方の学習において抱いた疑問や知らなかったことを「問い」というかたちで表そうとしている。すごろくの作成・実施・省察を通して「日本」についてのイメージを変容させようとしている (主に「関心・意欲・態度」)。 ・日本の各地方についての疑問や知らなかったことを「問い」というかたちで表現している。すごろくづくりを通して、「日本」についてのイメージの変容を認識している (主に「思考・判断・表現」)。 ・「問い」を作成する際に情報を収集するために資料やデータにアクセスできている。また、情報を取捨選択できている。 (主に「資料活用の技能」)。 ・「問い」を作成するための日本の各地方の基本的な知識や概念をある程度習得できている。その中で疑問や知らなかったことなど「わからないこと」に着目して、ある程度知識や概念を活用している (主に「知識・理解」)。
1-6点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の各地方の学習において抱いた疑問や知らなかったことを「問い」というかたちで表そうとしている。 (主に「関心・意欲・態度」)。 ・日本の各地方についての疑問や知らなかったことを「問い」というかたちで表現しようとしている。 (主に「思考・判断・表現」)。 ・「問い」を作成する際に情報を収集するために資料やデータに部分的にアクセスできている。 (主に「資料活用の技能」)。 ・「問い」を作成するための日本の各地方の基本的な知識や概念をあまり習得できていない。その中で疑問や知らなかったことなど「わからないこと」に着目して、あまり知識や概念を活用できていない (主に「知識・理解」)。
0点	評価基準の説明にある水準をいずれも達成できていない。

パフォーマンス課題「日本縦断すごろくプロジェクト」 ワークシート—中国・四国地方編—

2年 組 番 氏名 _____

【中国・四国地方の学習での疑問や新しい発見】

【各都道府県の「問い」づくり】

担当する都道府県	問い	模範解答	解説

【各都道府県の「問い」づくり】

担当する都道府県	問い	模範解答	解説

パフォーマンス課題「日本縦断すごろくプロジェクト」 ワークシート—近畿地方編—

2年 組 番 氏名 _____

【近畿地方の学習での疑問や新しい発見】

【各都道府県の「問い」づくり】

担当する都道府県	問い	模範解答	解説

【各都道府県の「問い」づくり】

担当する都道府県	問い	模範解答	解説

パフォーマンス課題「日本縦断すごろくプロジェクト」

班活動ワークシート—近畿地方編—

【班メンバー】

①2年	組	番	氏名	②2年	組	番	氏名
③2年	組	番	氏名	④2年	組	番	氏名

【各都道府県の「問い」】

担当者	都道府県	問い	模範解答	解説
	兵庫県			
担当者	都道府県	問い	模範解答	解説
	京都府			
担当者	都道府県	問い	模範解答	解説
	大阪府			

担当者	都道府県	問い	模範解答	解説
	和歌山県			
担当者	都道府県	問い	模範解答	解説
	奈良県			
担当者	都道府県	問い	模範解答	解説
	三重県			
担当者	都道府県	問い	模範解答	解説
	滋賀県			

日本縦断すごろくプロジェクト

作成者

2年(B)組()番氏名() 2年()組()番氏名
 2年(B)組()番氏名() 2年()組()番氏名

The board is a grid-based map of Japan, divided into four main regions. The path starts at 'スタート' (1) and ends at 'ゴール' (47). Various regional products and symbols are illustrated around the board:

- Top Region (Hokkaido):** アイスクリーム (Ice cream), ムツゴロウ (Mutsuro), くり林 (Chestnut forest), りんご (Apple), さくらんぼ (Cherry).
- North-Central Region (Tohoku):** 鹿 (Deer), 舞子 (Dance girl), 木村 (Mokura), ナマズ (Namasu), 鳥 (Bird), 盛岡 (Morioka), 納豆 (Natto), たいま (Taima).
- Central Region (Kansai):** 上杉 (Uesugi), かん (Can), ホタル (Firefly), トキ (Toki), 赤い (Red), 納豆 (Natto), たいま (Taima).
- South-Central Region (Kansai):** 真珠 (Pearl), 通天閣 (Tenjingu), 厳島神社 (Miyajima Shrine), 鳥 (Bird), 越前 (Echigo), 蟹 (Crab), 雷門 (Raimon), 浅草 (Asakusa), 中華街 (Chinatown), 龍 (Dragon).
- South Region (Kyushu):** カステラ (Castella), 日向夏 (Hyakka), 黒豚 (Black pig), 明太子 (Miyako-tama), マスカット (Muscat), 信楽焼 (Shikaraku-yaki), せりほ (Sericho), 白 (White), そば (Soba), びら (Bira), ころ柿 (Korokaki), 蓮の花 (Lotus flower), 鳥取砂丘 (Tottori Sand Dunes), 信楽焼 (Shikaraku-yaki).

～課題解決のために図書館・インターネットを活用しよう～

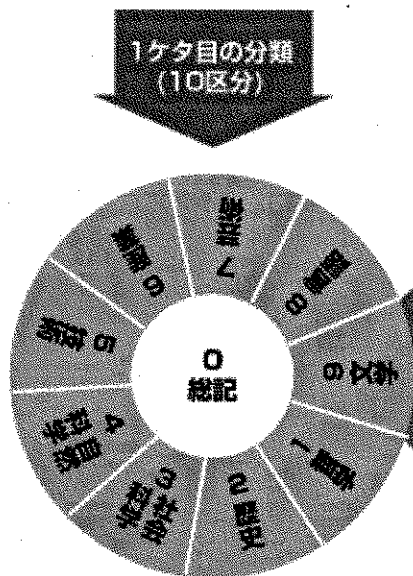
【各県について書籍で調べる】

主に日本地理の本は、2類 291 日本地理 に分類されますが、主題によっては、他の分類番号がふられています。

今回、図書館では、分類番号 291 の日本全土について扱っている本と、年鑑や統計書はナンバリングをふって、展示コーナーに並べました。

各地方について書かれている本は、地方別にまとめて別置してあります。両方見てください。

(1北海道・東北地方、2関東地方、3中部・近畿地方、4中国・四国地方、5九州・沖縄地方) こちらは、291 以外の本も入っています。その他にも問いの地域課題に関連する本を並べてありますが、別置以外の本棚も探して、みて下さい。



本は、奥付を見て、出典を確認しましょう。特にデータ類は、できるだけ新しいものを使いましょう。

①著者	こどもくらぶ 編
②書名	統計・資料で見る日本地図の本 3 北関東・甲信越
③出版社	岩崎書店
④出版年	2008 年4月

【インターネットを使って調べる】

次の二つのサイトは、学校が契約している有料コンテンツです。

ID
パスワード

ジャパンナレッジ lib <http://japanknowledge.com/library/?4>

約 50 種類の辞事典、叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイトです。基本検索はすべての辞事典を横断検索しやすいようにシンプルな作りをしている一方、詳細(個別)検索では各辞事典に応じたオリジナルな絞り込み機能(ファセット)を加え、より詳しく検索できるようになっています。

ID
パスワード

スクールヨミダス <https://database.yomiuri.co.jp/school/>

ヨミダス文書館(スクール版)は、インターネットで記事をテキスト検索できるオンライン記事データベースです。読売新聞の過去の記事が読めます。地方版の記事もちろんあります。

以下のサイトは、学校だけでなく、家からも見られます。

e-Stat 政府統計の総合窓口 <http://www.e-stat.go.jp/>

各県に関する様々なデータを見ることができます。

* その他、キーワード検索によって、出てきた情報は、その情報を発信しているサイトが信頼できるかを必ずチェックしましょう。

ネット情報の評価 (思考を深める探究学習 桑田てるみ著 全国学校図書館協議会 2016)

チェック	確認事項	確認すべき部分
<input type="checkbox"/>	作成者・組織	どのような人や組織が作成しているWebサイトか? 見分け方の例: www.〇〇.go.jp ← 日本政府関連機関
<input type="checkbox"/>	内容の信頼性	内容が偏っていないか? サイトの目的は何か? データなどの根拠が示されているか?
<input type="checkbox"/>	内容の新鮮さ	いつ作成されたか? 古くないか?
<input type="checkbox"/>	Webページの質	リンク切れがないか? 誤字脱字はないか? 良く考えられた構成になっているか?

ネット情報の出典の書き方の例

①作成者	埼玉県庁 総務部 統計課
②ページタイトル	ぼくのわたしの埼玉県
③Webサイト名	コバトンと学ぶこども統計クラブ
④URL	http://www.saitama-toukei.jp/data/agriculture/index.html
⑤アクセス日	2017/2/8

Web ページのアドレスの最後につくドメイン

go.jp 政府機関	government japan
ac.jp 大学	academy japan
ed.jp 小中高	education japan
ne.jp ネットワークサービス	network japan
co.jp 一般企業	company japan
com 一般企業	commercial

注) パフォーマンス課題は、資料活用の技能も評価の対象となっています。

◆「問い」を作成する際に適切な情報を収集するために様々な資料やデータにアクセスできている。また情報を取捨選択し、適切な情報を活用することができている。正確に出典を明示し、「問い」の信頼性を担保している。